

● **第2回理事会から 農園活動について 26日 午前9時30分から12時** 農園活動の年間収穫量などについて、議論が深められました。農業は3K（さんけい）と言われているとよく聞きます。しかし食欲は動物が生きているための本能です。その食糧生産の仕事が3Kだといって働き甲斐のない仕事なのでしょうか。里山農園での栽培は貴重な作業現場なのです。田辺府営団地の朝市は、大勢のお客様が午前8時にはどやどやと集まってくださって、あっという間に完売になります。先日28日は、いつもの通り40分間ぐらいで終了となりました。ここから大いに学ぶことが多くあったように思います。理事会でも同じ内容が話し合われていました。販売・栽培・品質・値段・継続・楽しみ・喜び・そして地域などといった各項目について総合的に広く考えて判断しなくてはならないのではないのでしょうか。これまで主に販売実績と栽培方法に偏った状況把握に陥っていたのではないかなどいうことから議論が深められました。

● **第6回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 27日 9時20分集合** 今年は例年になく6回の開催を計画しました。全体的に事業が多いから減少させようという声が聞こえていました。炭焼きや田植え、稲刈りとといった里山の会の中心を担ってきたイベントが2016年度をから諸般の事情で開催不可能になり、随分と様変わりした事業計画になりました。20年にして大変革が始まりました。里山の会の次代を担う代表的な事業が見えなくなってきました。このとき草内渡しの浜親水公園に通路が完成され大変歓迎しました。しかし茶園畑の人からクレームが来て、出来上がった渡しの浜親水公園の通路の完全撤去となって、ひと時の喜びに終わりました。施設がなくなったからと言って中止にすることはできません。こうした最悪のもともども、何とか6回を実行できました。部分的に準備不足もありましたが、参加申込者は401名で、関わっていただいたスタッフは延べ88名となりました。すごい参加申し込みと、それを受け入れられる1回あたりスタッフ14名の体制が確立されました。実施前には、これだけの陣容は考えられませんでした。不安いっぱいだったのですが終わってみれば、すごい体制が確立できていたのです。また、これまでは川流れ体験を実行したくても危険を考えると無理だと判断していました。しかし、スタッフの皆さんの力量が体験と経験から大きく成長されていて、川ながれを取り組みが可能だという状況判断があり提案があって、保護者を全面的に信頼して参加者全員を巻き込むことを念頭にして初めて取り組みました。参加した子どもたちは、魚とり以上に気に入って、生き生きと楽しんでいただきました。このうれしい体験を目にした保護者もすっかり役割を果たしていただきました。まさに参加者全員が一つの家族になって、すべての子供たちの安全にご協力をいただきました。回数は多かったけれどもいい体験をさせていただけた夏イベントで新しい里山の会の代表的なイベントが加わったようです。

● **昨年に続き、第2回目の竹蛇籠を作る 27日 13時30分～17時00分** 学生さん4名応援に参加 真竹の伐採を開始したのは14時頃でした。太いのは扱いにくいから周囲20cmの竹を切り出してほしいと呼びかけましたが、元気に任せて30cmもあるものばかりが伐採されてしまいました。それを割りますとかなり太くて強靱な材料となり、組み始めてみると直径45cmの予定のところ80cmというとても太い大きな竹蛇籠になってしまいました。素材の幅が広いと曲がりにくく、強力に締めても細く仕上がりました。それでも力任せに組みあげましたが、モデルとは似ても似つかない太く大きい物になってしまいました。振り返ると4cm以下の幅にした、少し弱くて細いと感じる幅の均一の材料を揃えることが肝心です。俵積みを使用するのですから同じ大きさの物を大量に製造するには均一の材料を用意することの必要性を学習しました。苦労しましたが終了完成の時間は17時でした。昨年の製作講習会の初日は120人で3本の制作に終わった例をみると随分と竹の切り出しから始めて短時間で作り上げることになりました。次回はもっと手際よく時間を短縮することが可能で、回数を重ねると要領よく製作できると確信を得ました。里山の会から深田三郎さん 播川司さん 有田勉さん 吉村国男さん 山村の5人の参加でした。

● **府営団地8月第二回目の朝市開催 28日午前8時販売開始 終了8時40分** 大村森島澤栄吉村さんでした

● **里山農園当面の活動にご参加を** 30日には農園の排水溝の清掃を実施しました。19枚の用地があり山裾の開墾地ですからそれぞれ畔で段差がありその畦の下部からは山の水が滲み出てきます。畔の裾には排水溝を掘削して畑地を乾燥させなくてはなりません。この溝による排水をうまく行えるか否かが畑作にとって生命線です。きちんと手入れをして機能させておかないで栽培を始めるといい作物を育てられません。判っているのだけれど後回しになってしまいますね。今年は少し気になって、溝の整理を行いました。ご苦労様でした。

● **第16回川に学ぶ体験活動全国大会に 大いにご出席を 9月3日 摂南大学** 途中集計ですが参加者は260人です。最終集計では300人規模の大きな集会になるのではないかと思います。新潟や北海道、福岡からの参加者をお迎えします。会場設営の計画、あと始末についても段取りが完成しつつあります。時間に制約された設営作業、そして手ぬかりなきよう進行しなければならない開会式の進行、基調講演と全国事例発表、さらに細かく進行する分科会の役割分担と各種記録の手配など開催日が迫ってくると次々と気づきあり、改善を繰り返して、大会成功に向かって進行させています。二日目のエクスカースションは5コースの取り組みです。屋外での現地移動が伴うので、随分と安全や保険にも気を使います。いよいよ明日2日午後から実行委員全員の集合がよびかけられ設営作業です。まだ出席をためらっておられる皆さん、16回目にして近畿で開催されるのは初回ということになります。この際にぜひとも3日の初日13時からの基調講演と全国事例発表特に、また私たち里山の会が中心になって行った竹蛇籠の取り組み発表が北野君と小林君が作り上げた竹蛇籠を示しながら発表いたします。応援に駆けつけてください。そして全国各地での取り組みをお聞きになって、注目されている里山の会の活動をご紹介ください。ご参加をお待ちしています。3日13時から寝屋川市の摂南大学スカイラウンジ（全体開場）です、京阪寝屋川駅からバスをご利用ください。

● **第20回里山講演会にご出席を 9月11日（日）午後1時から 中部住民センター セセラギホール** 今回学生諸君の発表は腕によりをかけて行った研究発表です。北野君は琵琶湖内湖での研究で、最新のデータを駆使した発表です。小林君はこの夏2カ月間にわたるハワイ諸島火山地における地質や植物の研究発表です。中柴君は地元木津川での亀を通した研究成果の発表で、大変興味がわきます。橋口君は現ドイツのハンブルグでの学会発表に出席しています。そして来春には環境庁に就職が内定している期待の星です。森と海をつなぐ川について発表します。京都大学が今、発信するキーワードについて聞くことになります。そして木津川のアユはどうなるのか、という興味津々の話題に挑戦していただいている谷口信彦さんからの特別講演にも大きな関心がおありではないでしょうか。今話題に応える第20回里山講演会に友人知人をお誘いあわせ、ぜひご出席下さい。

● **第34回京都木津川マラソン大会参加申し込み用紙が配布されました。参加受付は10月1日から開始されます。** 昨年は4日間でフルマラソン（2500人）は締め切りとなりました。まさに瞬間の募集期間ということになります。今年も同数の2500人を受け付けます。ハーフ、5km、3km、ファミリーと小学生の参加を大歓迎いたしております。申込資格に制限はありません、ただし先着順で受け付けますので、オーバーとなると出場できませんので、できるだけ早く申し込んでください。用紙は里山の会事務所に用意しています。

● **里山農園冬野菜の植え付け開始、美味しい野菜を栽培してみませんか** 種まきにお越しください9月10日、水曜日午前10時から実施します。ご希望があれば種子をお持ちください。場所が残ればあなたのご希望にも沿うことができますと思います。ただし自然の宝庫である希少植物との交雑が心配されるものはお断りさせていただきます。